

我孫子市立湖北小学校 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果

① 成果と課題

国語

前回（令和5年度）と比較すると「読むこと」、「書くこと」の領域で平均正答率の向上が見られました。「読むこと」においては、物語の人物像を具体的に想像したり、文章表現の効果を考えたりすることが、よくできていました。「読むこと」は全国や県の平均正答率と同程度の出来栄でした。「書くこと」においては、情報と情報との関連付けの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができていました。また、解答の形式別に見ると、記述式問題での正答率の伸びが見られ、無解答率も低い傾向が見られました。本校の新聞を活用した学習であるNIE（Newspaper In Educationの略）の取り組みが、成果として感じられる結果でした。

しかし、「話すこと聞くこと」については、前回の本校の数値や、全国平均、県平均と比べて正答率が低い傾向にあります。資料を活用し自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題や、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係づけたりして伝え合う内容を検討する問題が、難しかったようです。また、漢字の書き取り問題の正答率が低いことなどが課題となりました。この2つの課題については例年の課題となっているため、文章を読み取ることに力を入れつつ、読み取ったことを元に、自分の考えを述べたり、他者の考えと比較しながら自分の考えを述べたりする活動や、漢字学習にも引き続き力を入れていきたいと思えます。

算数

前回（令和5年度）と比較すると、平均正答率での向上が見られました。領域別に見ると、「図形」や「データの活用」領域で向上が見られました。特に「図形」では、角柱の底面や側面に着目して五角柱の面の数やその理由を答える問題では、全国や県の平均正答率と同程度の出来栄でした。また、「データの活用」では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることが、よくできていました。

しかし、「数と計算」、「変化と関係」の領域に関しては課題が見られました。「数と計算」では、問題場面の数量の関係を捉え式に表す問題や、「変化と関係」では、道のりが同じ場合の速さについて、時間を元に判断しその理由を説明する問題で、正答率が低かったです。また、記述式問題にも課題が見られます。無回答率は低いですが、正答率において、やや低い傾向にあります。こちらも例年の課題となっているため、基礎・基本となる知識の確実な習得を目指し、指導を続けていきます。特に記述式問題では、自分の考えの根拠が必要な場合が多いので、基になる知識や情報から、相手にわかりやすく説明する活動を、今後も続けていきます。

算数に限ったことではありませんが、児童個々の正答率に二極化が見られます。国語や算数が得意だと感じている児童は、自分の考えを積極的に出し、進度も速いです。苦手意識をもっている児童は、課題に前向きになれず、集中が散漫なこともあります。タブレット等を活用し、一人一人の習熟状況に合わせた学習課題の設定や指導、児童の意欲を高めていけるような工夫を、今後も実施していきたいと考えています。

質問紙

「規範意識」及び「自己有用感」の分野が高い傾向にあります。「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問では、全国平均と同等の結果となりました。また、「自分にはよいところがあると思いますか」や「夢や目標を持っていますか」という質問、学校での学習に関する質問に対しては、前向きな回答が多く見られました。さらに、「これまでに受けた授業で、ICT機器はどの程度使用しましたか」という質問でも、高い使用率がうかがえる回答状況でした。

反面、「生活習慣・学習習慣」の分野はやや低い傾向にあります。「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしていますか」という質問では、「当てはまらない」と答えた児童の割合が、全国平均よりもやや高い結果となりました。また、「学校以外での学習時間」においても全国平均よりも少ない傾向が見られました。そして、「家庭でのゲームやテレビ、スマートフォンをどれくらい使用しているか（勉強以外）」という旨の質問では、全国平均よりも長い時間の使用が見られます。家庭学習の取り組みに加え、家庭でのメディア機器とのつきあい方にも気をつけてください。ご家庭の話題とし、考えてみてください。

② 今後の取り組みについて

めまぐるしく変化する現代において、自ら考え、学び、行動できる人を育成していけるよう、本校の教育目標である「やさしくかしこくたくましく」を大切に、教員間だけでなく、保護者・地域の皆様とチームとなって指導に当たっていきます。

本校では学力の向上のため、課題に向けて以下のような方策を立て、取り組んでいきます。

○言語活動と読書活動の充実

研究教科に国語科を位置づけ、『「読むこと」において考えることを形成できる児童の育成～感想や考えを書く活動を通して～』をテーマに、言語活動に取り組んでいます。学んだ知識や自分の体験をふり返り、言葉で表現させることを大切にしています。

また、昨年度より、新聞を用いた「NIE（News in Education）」の取り組みも行っており、記事を読んでわかったことや感じたことなど、自分の考えを書く活動につなげることで一定の成果が見られました。次年度の研究テーマについては未定ですが、児童の実態に合わせ今後も児童が意欲的に学習できるようテーマを設定し、実践を重ねていきます。

○タブレットの活用

タブレットを活用し、個別に課題を設定したり練習問題に取り組ませたりしています。今年度は「デジタルドリル」を導入し、一人1台端末のメリットを生かした学習を行っています。また、児童相互の考えを、タブレット上で共有するなどして、協働的な学びへもつなげています。今後さらなる活用方法を模索・検討していきます。

○子ども達の、学びへ向かう姿の育成

先にも述べたように、正答率の二極化が見られます。それは普段の生活に置き換えると、学習に向かう姿の二極化とも言えます。子ども達一人一人が、意欲的に学習に向き合えるよう、学校ではカリキュラムや指導方法を常に見直しております。ご家庭でも気になることがあればご相談いただくとともに、お子さんが健やかに前向きに学校生活を送れるよう、身体面・精神面でのサポートを、よろしくお願ひします。特に、早寝、早起き、朝ごはんは、生活の基本となります。本校教育活動へのご理解とご協力を、今後もよろしくお願ひいたします。